

1 HbF が HbA1c に与える影響度

2
3 ○渡部健太（帝京大学ちば総合医療センター SRL 検査）
4 八塚則行（帝京大学ちば総合医療センター SRL 検査）
5

6 【目的】 当院では HbA1c 測定の際、HbF が高値であ
7 った場合、結果に負誤差を与えてしまうため、補正
8 式に当てはめ真の HbA1c 値を算出している。しかし、
9 HbF の値がいくつから補正する必要性が出てくるの
10 かと言った明確な値付けがなされていないのが現状
11 です。そこで、今回は HbF が HbA1c に与える影響度
12 合いを調査し、補正が必要となる HbF 値について検
13 証したので報告する。

14 【方法】 当院に提出された 1000 件の検体について
15 HbA1c の測定を行った。その結果より、全ての結果
16 に対して HbF の補正を実施し、補正前と補正後の結
17 果の差を比較した。

18 【結果】 1000 件の検体を対象とした結果、今回設定
19 した HbF の基準範囲内では、HbA1c に与える測定誤
20 差は最大で 0.2%であった。しかし、HbF が高値化し
21 ていくにつれ HbA1c に与える影響度は大きくなり
22 HbF5.0%ほどで 0.3%、HbF10.0%以上の検体にな
23 ると 0.5%以上の負誤差を与えると言う結果が得られ
24 た。

25 【考察】 今回の調査では、HbF の基準範囲内での測
26 定誤差は最大で 0.2%となり、基準範囲内であれば
27 HbF の補正前後で測定値に大きく影響を与えるもの
28 ではないと考えられる。しかし、HbF が高値化して
29 いくにつれ HbA1c に与える影響度は大きくなり、
30 5.0%を超えると 0.3%ほどの負誤差を、またメカが
31 補正の対象とする 10.0%以上の検体になると 0.5%
32 以上の負誤差を与えることがわかり、HbF5.0%以上
33 から補正の有用性があることがわかった。また、中
34 には HbF5.0%を下回る 4.0%付近の検体においても
35 HbA1c に 0.3%ほどの負誤差を与える検体が見られ、
36 HbA1c 基準値上限付近では HbF の補正を実施し、真
37 の HbA1c 値を求めることで、糖尿病等の診断の際に
38 大きな意義を持つてくることがわかった。
39